

佐藤 明教授のご退職にさいして

関学高商の伝統を引き継ぐ本学の商学関係の高等教育は、戦後、（新制）関西学院大学商学部委ねられることになるが、佐藤 明教授は昭和26年の（新制）商学部の発足に先立つ昭和24年にすでに関西学院大学に就任され、その後今年の3月本学を退職されるまでの約40年間、商学部での研究と教育に勤しまれた。

佐藤教授はもともと京都大学経済学部および同大学院にて経済史をご専攻になり、その関係で商学部の発足以来一貫して西洋経済史を教えてこられた。その間、自らのご研究としてはもっぱらイギリス経済史に焦点をおかれ、その成果は昭和34年、「イギリス産業革命の構造」として公刊され、翌年京都大学より経済学博士を授与された。もっとも最近では、時代の要請を敏感に感じとられ、第三世界の諸問題をふくむグローバルな視点から経済史を問い直しさらに新たな飛躍に向けて意欲的な研究を続けておられる。

佐藤教授は研究および教育の両面で常に厳しい姿勢を求められ、学生たちは畏敬の念をもって接していたようである。佐藤教授は一面において極めて強くアカデミックな業績を重視しながら、同時に大学および学院の行政に積極的に参加された。昭和40年代の大学紛争の最中に商学部長を務められ、それに引き続いて学長代理、さらには学院の理事として当時の社会的混乱から関西学院を守ることに最大の努力を払われた。

今回このような形で佐藤 明教授のご退職を記念して商学論究の特別号を発刊できることは誠に喜ばしい。いうまでもなくこの記念号の発刊にさいしては本学部に所属する多くの先生方のご協力を必

要とし、また本学経済学部からはとくに天川潤次郎教授、北村次一教授および藤井和夫助教授の先生方より玉稿をお寄せいただいたことを付記しなければならない。これらご協力いただいたすべての先生方にたいし心からお礼を申し上げたい。

1988 年 10 月

商学部長 丸 茂 新